

# News Release

2019年7月25日  
独立行政法人製品評価技術基盤機構  
NITE（ナイト）  
東北支所

## 家の外で起きる事故から子どもを守る ～正しく使って、しっかり教えましょう～ (東北版資料)

### 1. 事故の発生状況

東北地方6県(青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県)で2009年度から2018年度の10年間にNITE(ナイト)に通知された製品事故情報<sup>※1</sup>から、屋外及び子どもが外出した先で発生した事故を整理すると、0歳から14歳までの子どもが死亡やけがなど被害者となった製品事故は、10件<sup>※2</sup>ありました。

被害状況は死亡1人、重傷5人、軽傷4人です。これらの事故には、子どもの予期せぬ行動が起こした事故や保護者<sup>※3</sup>の不注意や目を離した際に発生した事故があります。

表1 0歳から14歳までの子どもが被害者となった事故の県別の年度別事故発生件数

発生年度 \ 発生県	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計
2009年度	0	1	0	0	0	0	1
2010年度	0	0	0	0	1	0	1
2011年度	0	0	0	2	0	0	2
2012年度	0	0	0	0	0	0	0
2013年度	0	0	0	0	1	0	1
2014年度	0	0	2	0	0	0	2
2015年度	0	0	2	0	0	0	2
2016年度	0	0	1	0	0	0	1
2017年度	0	0	0	0	0	0	0
2018年度	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	1	5	2	2	0	10



表2 0歳から14歳までの子どもが被害者となった事故の県別の被害状況別事故発生件数

被害状況	発生県						合計
	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	
死亡	0	0	0	1	0	0	1
重傷	0	0	4	1	0	0	5
軽傷	0	1	1	0	2	0	4
拡大被害	0	0	0	0	0	0	0
製品破損	0	0	0	0	0	0	0
被害なし	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	1	5	2	2	0	10

表3 0歳から14歳までの子どもが被害者となった事故の県別の事故原因区分別発生件数

原因区分		発生県						合計
		青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	
製品に起因する事故	A:設計、製造又は表示等に問題があったもの	0	1	0	0	0	0	1
	B:製品及び使い方に問題があったもの	0	0	0	0	0	0	0
	C:経年劣化によるもの	0	0	0	0	0	0	0
	G3:製品起因ではあるが、その原因が不明のもの	0	0	0	0	0	0	0
い製品に起因しない事故	D:施工、修理、又は輸送等に問題があったもの	0	0	0	1	1	0	2
	E:誤使用や不注意によるもの	0	0	0	0	0	0	0
	F:その他製品に起因しないもの	0	0	2	1	0	0	3
G1、G2:原因不明のもの		0	0	3	0	1	0	4
H:調査中のもの		0	0	0	0	0	0	0
合計		0	1	5	2	2	0	10

- (※1) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含める。
- (※2) 重複、対象外情報を除いた事故発生件数。
- (※3) 保護者には、家族や家族以外の大人も含む。

## 2. 主な事故事例

### ○2014年8月2日（宮城県、14才男子、使用期間約2年4ヶ月、重傷）

事故内容: 自転車で走行中、当該製品の前ホークと車体の間が折れて転倒し、負傷した。

事故原因: 詳細な使用状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品は、前ホークに、後方への大きな変形が認められたものの、前ホークの強度に異常が認められなかったことから、走行中に何らかの大きな力が加わったため前ホークが変形したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。

### ○2014年6月25日（宮城県、10～14才男子、使用期間約3ヶ月、重傷）

事故内容: 自転車で下り坂を走行中、ブレーキを掛けたが歩道の縁石に衝突し、転倒、負傷した。

事故原因: 詳細な使用状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、ブレーキ部品に変形等の異常は認められないことから、後ブレーキワイヤーが初期伸びや調整不良によって緩みがあったため、後ブレーキの制動力が低下し、制動距離が伸びて事故に至った可能性が考えられ、製品に起因しない事故と推定される。

なお、取扱説明書には、「購入初期は、ねじのなじみなどの影響でゆるみなどが生じやすいため、購入後2か月以内に初期点検を受ける」旨、記載されている。

### ○2011年11月3日（秋田県、0才男子、使用期間約6年、死亡）

事故内容: 旅館において、乳児が、テーブルの上に置かれていた電気ポットに触れたところ、当該製品が倒れ蓋が開き、熱湯がかかって火傷を負い、翌々日に死亡した。

事故原因: 当該製品に変形、破損等の異常が認められないことから、乳児が当該製品の蓋を開き、転倒させたことによりお湯がかかり、火傷を負ったものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。

### ○2011年8月6日（秋田県、9才男子、使用期間約4ヶ月、重傷）

事故内容: 自転車で走行中、ペダルが抜け落ち、転倒し、負傷した。

事故原因: 当該製品は、販売店が当該製品のクランクにペダルを組み付ける際に、ペダルの締め付けが不完全であったため、使用中に緩みが発生し、ペダルがクランクから抜け落ち、使用者がバランスを崩して転倒し、事故に至ったものと推定される。

なお、製造事業者が販売店に配布しているチェック項目には「ペダルの取り付けトルク35～45Nm」、「ペダルを上下左右に動かしガタがないか確認する」旨、記載されている。

### ○2010年8月3日（山形県、14才男子、使用期間約4ヶ月、軽傷）

事故内容: 走行中の自転車のペダルが外れて転倒し、足に打撲などを負った。

事故原因: 販売店においてペダルを取り付けた際に、左クランクと左ペダルとの締付けが不十分であったため、走行中に徐々に緩みが増し、左ペダルが外れたものと推定される。

### 3. 0歳から14歳までの子どもが被害者となった事故の実験映像について

0歳から14歳までの子どもが被害者となった事故の実験映像に関しまして、写真及びムービーをご希望の場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構+NITEのロゴ」としてください。

以上

#### 【編集人のつぶやき】

夏、子どもたちは外で遊ぶことが多くなります。

屋外は保護者の注意が行き届かないことも少なくありません。

- ・普段から安全について子どもと話し合う
  - ・動いている部分、隙間、鋭利な部分、高い所等の危険源から子供を遠ざける
  - ・安全に配慮した製品を使う
- などが子供の事故を防ぐポイント！

データで製品別事故を見ると、自転車の事故が半分近くを占め、そのうち12才児から14才児の事故が半数を超えます。

そして、小っちゃい子供は大人が想像もしない行動をするんです！危険源から遠ざけることが大切です。

(本件に関する問い合わせ先)

〒983-0833 宮城県仙台市宮城野区東仙台 4-5-18

独立行政法人製品評価技術基盤機構(略称:NITE)  
東北支所 業務課

担当:菊地(きくち)、齋藤(さいとう)、福井(ふくい)

電話:022-256-6423

E-mail:jiko-tohoku@nite.go.jp

NITE  
ホームページ



YouTube  
公式チャンネル



Twitter  
公式アカウント

